

## 平成27年度 病院事業会計決算概要

平成27年度の病院事業会計決算は、純損失2千万円、単年度資金残は3億7千9百万円のマイナスとなりました。

収益的収支は、収益では研修医の育成や医学生を対象とした実践型臨床実習の取り組みを進めるなど医師確保による診療収益の維持を目標とし、費用についても薬品の購入単価抑制をはじめさまざまな節減努力を重ねることで経費の圧縮を進めておりますが、患者数の減少により当期損益は純損失2千万円となりました。（下記、損益「当期純損益C」）

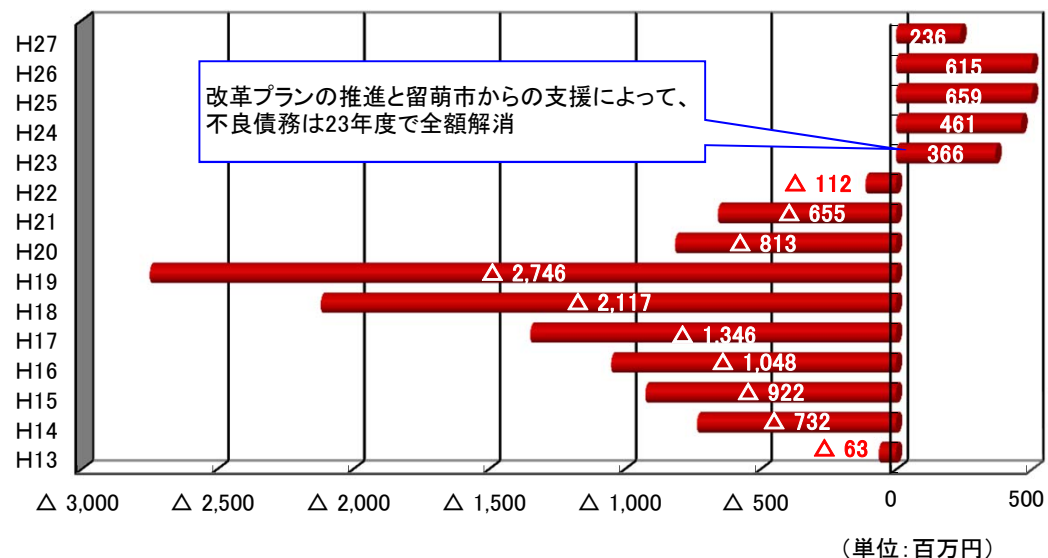
一方、資本的収支は、病院建設や医療器械購入などの借金返済が高額であるため、収支は5億8百万円の不足となりました。（下記、資本「収支差引G」）

これに、補てん財源となる損益勘定留保資金等1億4千9百万円（下記、「損益勘定留保資金等D」）を加えた結果、単年度資金残は3億7千9百万円（下記、「単年度資金残H」）のマイナスとなり、翌年度に繰越す運転資金は減少しています。（下記、「年度末資金残L」）

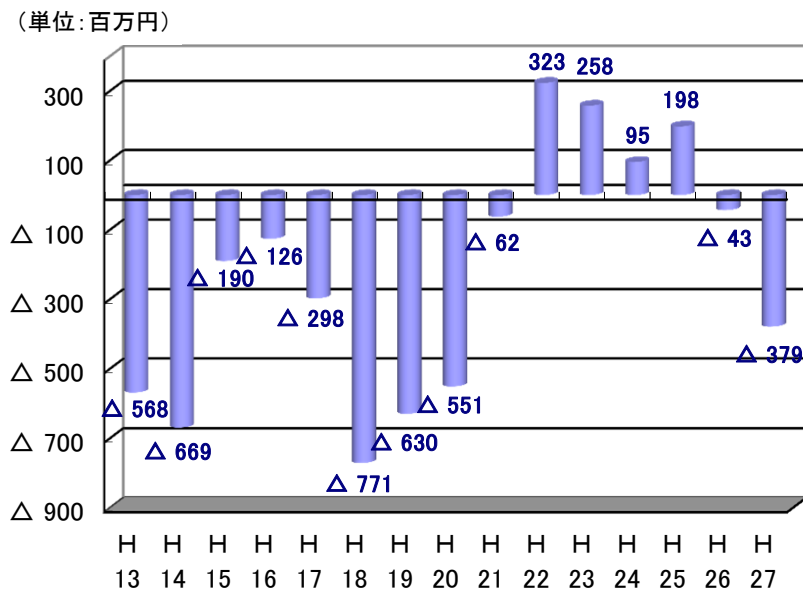
損益	総収益 A	5,445	資本	資本的収入 E	399
	総費用 B	5,465		資本的支出 F	907
	当期純損益 C =A-B	△ 20		収支差引 G =E-F	△ 508
	損益勘定留保資金等 D	149			

- ・単年度資金残 H=C+D+G △ 379 (単位:百万円)
  - ・前年度末資金残(過年度損益勘定留保資金) I 615
  - ・当年度末資金残 J=H+I 236
- ※各項目で四捨五入しているの合計が合わない場合があります

### ★累積資金不足額の推移★



### ★単年度資金収支の推移★



# 1. 収益的収入の状況

病院事業の収入は、入院及び外来の診療収益が大部分を占めています。内訳は、下記のとおりです。

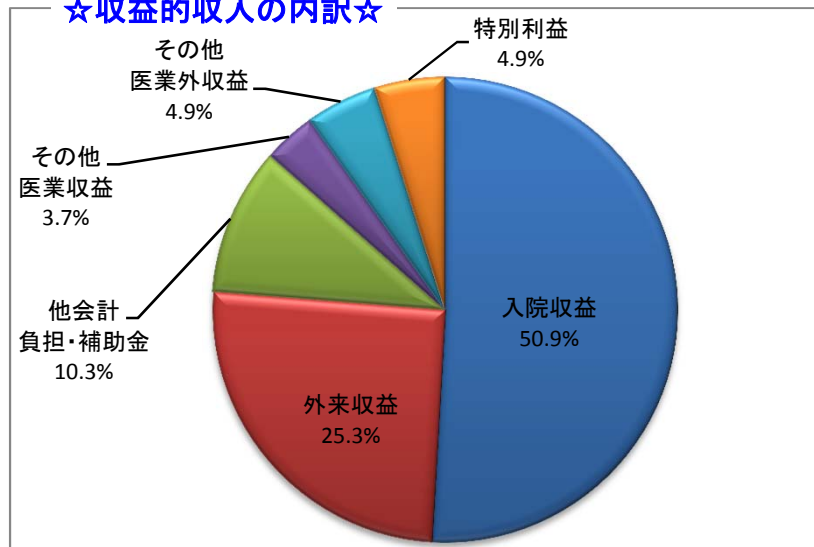
(単位：千円、%)

区 分	内 容	平成27年度			平成26年度	前年比較	増減率
		予算額	決算額 A	構成比	決算額 B	C (A-B)	C / B
入院収益	入院診療に対する個人負担、社会保険や国保からの収益	2,804,497	2,772,562	50.9	2,885,409	△ 112,847	△ 3.9
外来収益	外来診療に対する個人負担、社会保険や国保からの収益	1,404,036	1,378,995	25.3	1,472,999	△ 94,004	△ 6.4
他会計負担・補助金	一般会計からの負担金・補助金（繰入金）	558,824	558,824	10.3	529,379	29,445	5.6
その他医業収益	病棟の特別室（個室）料金、人間ドック・健康診断料など	212,893	198,768	3.7	204,962	△ 6,194	△ 3.0
その他医業外収益	道補助金、職員の給食費・保育料など	269,200	269,416	4.9	127,492	141,924	111.3
特別利益	病院特例債の元金償還補助、過年度収益の修正など	266,109	266,109	4.9	266,092	17	0.0
合 計		5,515,559	5,444,674	100.0	5,486,333	△ 41,659	△ 0.8

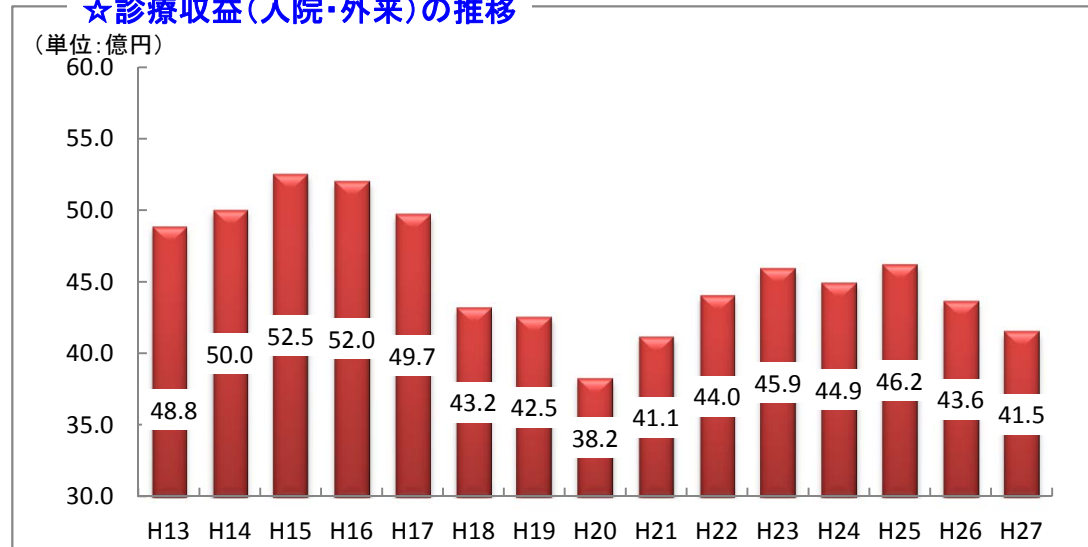
※決算額は税抜きで表示しています。

前年度決算と比較して、総収入の約8割を占める診療収益（入院・外来収益）は1億1千2百万円少ない約41億5千万円となりました。平成21年度からの病院改革プランの実行により、診療収益は順調に推移していましたが、平成26年度からの常勤医師の減少や、患者数の減少により収益が大きく減少しています。また、他会計負担・補助金では、救急等不採算部門への支援などで2千9百万円の増、その他医業外収益では退職給付引当金の戻入益などによる1億4千万円の増などがありますが、収益的収入合計では4千万円の減額となりました。

## ☆収益的収入の内訳☆



## ☆診療収益(入院・外来)の推移



## 2. 収益的支出の状況

職員の給料、医薬品購入等の病院事業を営むために必要な経費です。内訳は、下記のとおりです。

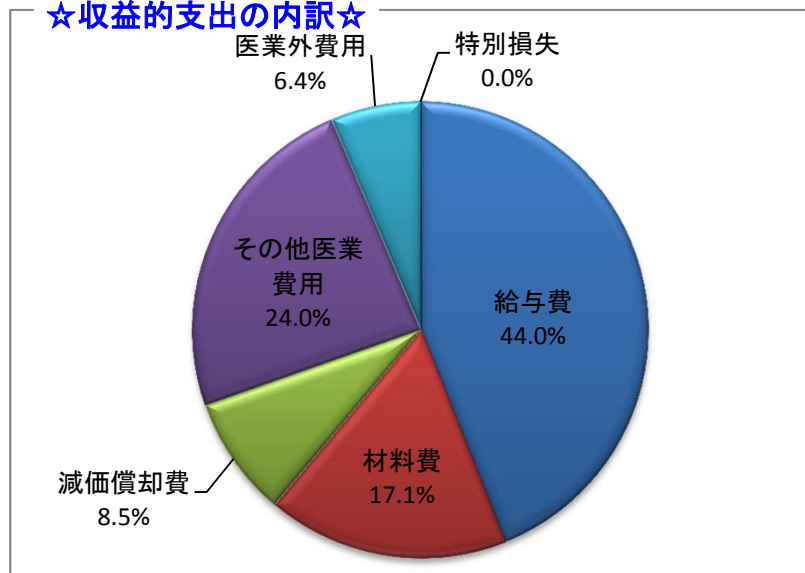
(単位：千円、%)

区 分	内 容	平成 27 年 度			平成 26 年度	前 年 比 較	増 減 率
		予 算 額	決 算 額 A	構 成 比	決 算 額 B	C (A - B)	C / B
給 与 費	職員の給料・手当、パート賃金など	2,438,554	2,401,915	44.0	2,495,189	△ 93,274	△ 3.7
材 料 費	薬や注射、診療に用いる材料費など	974,977	937,531	17.1	961,919	△ 24,388	△ 2.5
減 価 償 却 費	建物や医療器械などの減価償却費	466,287	465,770	8.5	453,155	12,615	2.8
そ の 他 医 業 費 用	出張医の報酬、施設の維持管理経費など	1,341,501	1,309,438	24.0	1,195,086	114,352	9.6
医 業 外 費 用	借入金利息、保育施設経費、患者搬送費用など	365,414	349,847	6.4	390,965	△ 41,118	△ 10.5
特 別 損 失	過年度費用の修正など	42	97	0.0	2,012,094	△ 2,011,997	△ 100.0
予 備 費		2,778	0	0.0	0	0	-
合 計		5,589,553	5,464,598	100.0	7,508,408	△ 2,043,810	△ 27.2

※決算額は税抜きで表示しています。

前年度決算額と比較して、給与費は職員・パート職員等の中途退職により9千3百万円の減、患者数の減少に伴い材料費が2千4百万円の減、その他医業費用では常勤医の減少を補うための出張医報酬の増加などにより1億1千4百万円の増、特別損失では前年度の会計制度移行に伴う計理処理が完了したため20億1千2百万円の減となり、収益的支出合計では20億4千4百万円の減となりました。

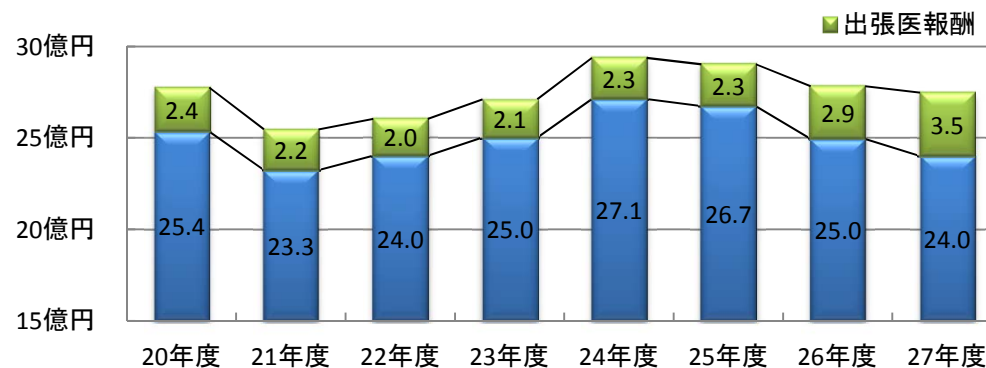
### ☆収益的支出の内訳☆



### ☆給与費等の推移☆

(単位：百万円)

区 分	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
職 員 給 与 費	2,535	2,325	2,404	2,503	2,713	2,674	2,495	2,402
出 張 医 報 酬	241	222	200	209	225	229	288	346



### 3. 資本的収支の状況

資本的収支とは、将来の経営活動に備えて行う医療器械の購入・施設整備やそれにかかる借入金(企業債)の元金償還、貸付金などの支出と、その財源になる借入金や一般会計からの繰入金などの収入で、事業運営(収益的収支)とは別の収支となります。内訳は、下記のとおりです。

#### ☆資本的収入☆

(単位：千円、%)

区分	内 容	平成 27 年 度			平成26年度	前 年 比	増 減 率
		予 算 額	決 算 額 A	構 成 比	決 算 額 B	C (A-B)	C / B
企 業 債	建設改良事業の財源となる借入金	100,000	92,100	23.1	103,000	△ 10,900	△ 10.6
他会計出資・負担金	借入金(起債)元金償還のための出資金・負担金(繰出金)	300,704	300,704	75.3	271,079	29,625	10.9
他会計補助金	医学生宿泊研修施設建設のための特別支援金(繰出金)	0	0	0.0	0	0	—
そ の 他	固定資産売却代金、貸付金償還金など	5,253	6,250	1.6	3,670	2,580	70.3
資本的収入合計		405,957	399,054	100.0	377,749	21,305	5.6

#### ☆資本的支出☆

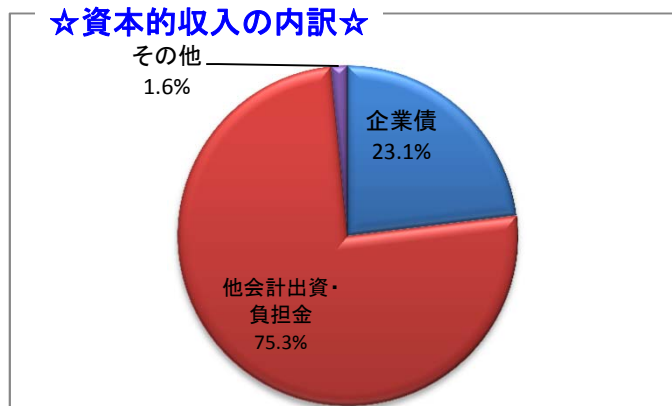
(単位：千円、%)

区分	内 容	平成 27 年 度			平成26年度	前 年 比	増 減 率
		予 算 額	決 算 額 A	構 成 比	決 算 額 B	C (A-B)	C / B
建 設 改 良 費	医療器械の購入、施設整備など	166,179	131,610	14.5	161,489	△ 29,879	△ 18.5
企業債償還金	借入金(起債)の元金償還金	681,452	723,230	79.8	681,452	41,778	6.1
そ の 他	修学・研究資金貸付金など	41,350	51,720	5.7	40,750	10,970	26.9
資本的支出合計		888,981	906,560	100.0	883,691	22,869	2.6
収 支 差 引		△ 483,024	△ 507,506	—	△ 505,942	△ 1,564	0.3

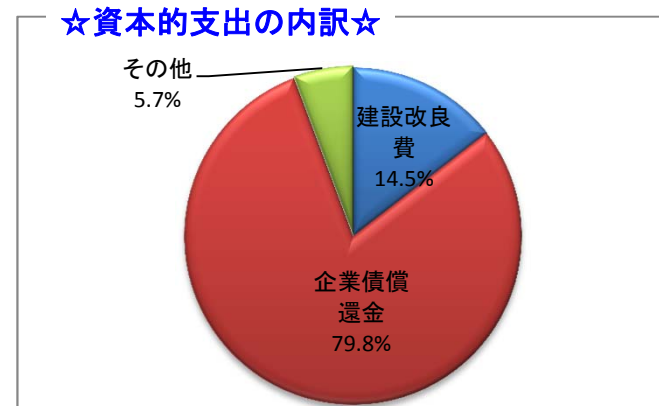
※資本的収支の決算額は税込み表示です。

平成27年度の資本的収支は、収入では平成23、25年度に借り入れた起債の元金償還が始まったことに伴う市の繰出金(負担金)の増加などにより2千1百万円の増、支出では企業債償還金で平成23、25年度に借り入れた起債の元金償還が始まったことによる増などで2千3百万円の増加となりました。収支差引は5億7百万円のマイナスとなっていますが、この不足分は過年度損益勘定留保資金(減価償却)などで補てんしています。

#### ☆資本的収入の内訳☆



#### ☆資本的支出の内訳☆



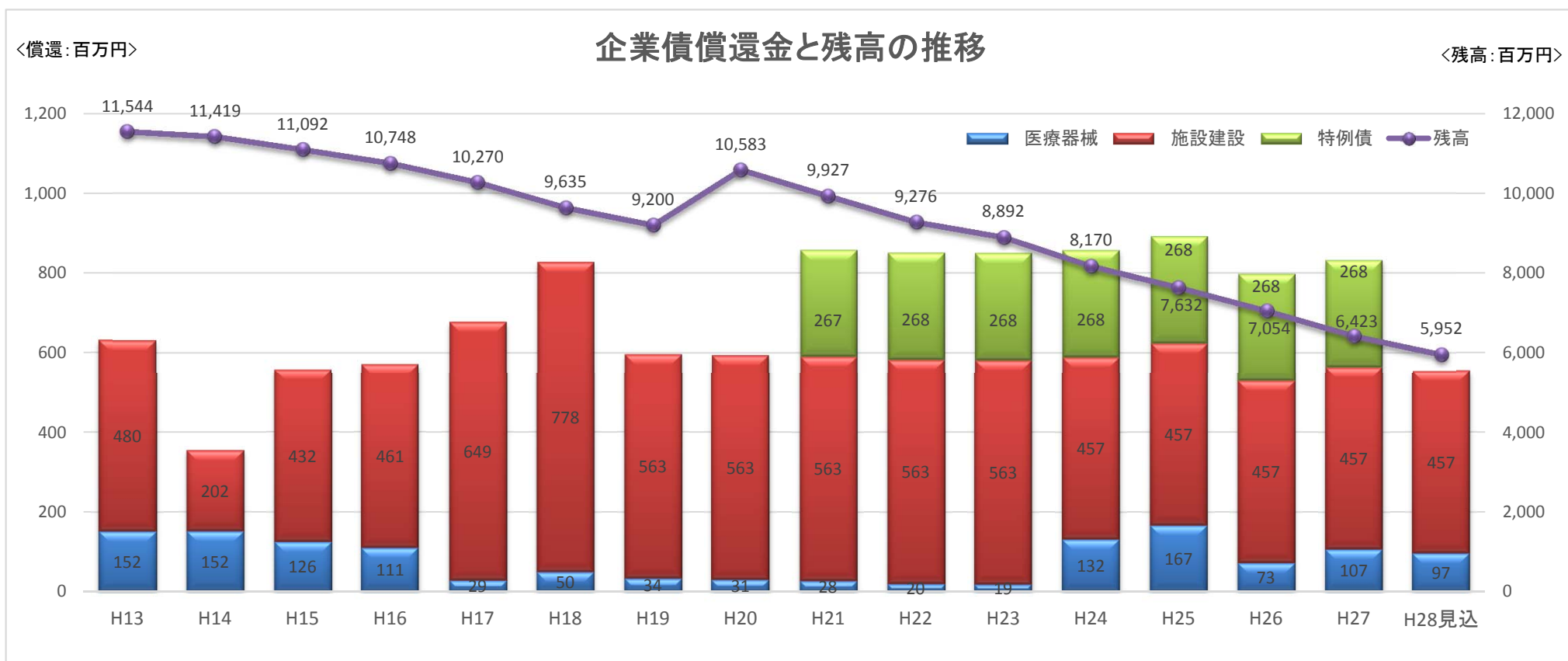
## 4. 企業債残高及び元利償還の状況

企業債とは、公営企業が建設改良事業（病院の場合は病院や医師住宅の建設、医療器械や備品の購入など）を行うにあたり、支払いに充てるための資金が不足している場合にする借金のことです。

市立病院の元利償還金（借金返済額）は、新病院建設や移転時に更新した医療器械購入の資金として借り入れた企業債の返済が平成18年度にピークを迎えたことと、平成20年度に公立病院特例債（不良債務を分割返済する特別な企業債）を発行したことで残高は急増し、毎年度8億円を超える返済が続きましたが平成27年度をもって返済が完了しました。（この病院特例債の返済は、留萌市財政健全化計画に基づき全額市が負担しています。）

平成18年度以降、経営健全化のため事業を抑制し借金を控えてきましたが、平成13年の新病院移転時に購入した医療器械などが更新時期（医療器械の耐用年数は、おおむね5～6年）を大幅に超えているため、機械更新のための投資（新たな借金）が必要となっています。

医療の質を落とさず、地域のセンター病院としての役割を果たすためにも医療資源への投資は必要となりますので、優先順位を十分に精査し、適切な更新を行ってまいります。





## 5. 医師及び看護師数の推移

地方の自治体病院では、平成16年度から実施されている医師の臨床研修制度の影響や勤務医の労働環境の悪化による開業医の急増 ※ などにより、大学病院医局からの医師の派遣を打ち切られたことで、医師を確保できない診療科を廃止せざるを得ないという現象が起きています。

実際、留萌市立病院では平成15年度には34名いた固定医が、平成19年度末には24名にまで減少し、その後平成23年度には32名に増加しましたが、平成27年度末では18名まで減少しました。しかし、地域の医療を守るため、固定医が不在の場合には出張医体制により診療を維持するため出張医の派遣日数が増加しています。

市立病院では道内の医歯大学や北海道に対し、地域医療を守るための医師派遣要請や研修医の受け入れ、さらには将来の医師育成のために医学生を対象とした実践型臨床実習「闘魂外来」などを実施しています。

また、看護師については、平成18年度の診療報酬の改定により看護師が多いほど高い点数を算定できるようになったこともあって、大学病院や民間の大病院などが大幅に採用を増やすなど争奪戦が繰り広げられています。これに伴い、看護師もより労働環境がよい方を選んで大量に大都市へ集中するようになっています。

そのため地方の病院では医師不足よりもっと深刻な状況になっており、市立病院でも人材の確保が非常に困難な状況となっているため、修学資金貸付金などの制度を活用し、看護師等の確保に努めています。

※ 全国的な医師不足のあおりをうけ病院勤務医が減少する中、連日の診療や手術で昼食すら取れず、さらには、軽傷でも「休みだから」とか「待ち時間が少ないから」など深夜でも気軽に診察を受けようとする『救急のコンビニ化』により深夜にたびたび呼び出されるなど勤務医の労働は過酷をきわめており、自由に時間をコントロールできる入院設備のない無床診療所の開業医が急増しています。そのために、病院に残った医師の負担が増え、さらに勤務が過酷になるといった悪循環になっています。

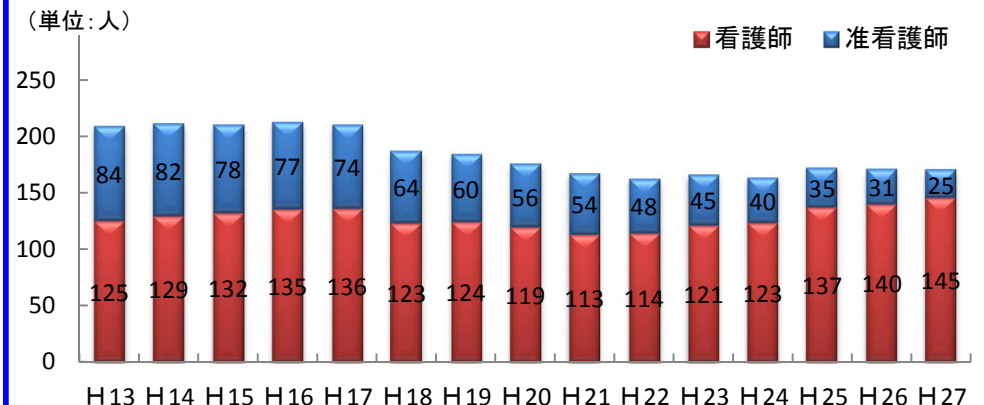
	13年度	14年度	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
固定医数	30人	31人	34人	34人	30人	25人	24人	25人	27人	30人	32人	29人	29人	24人	18人
看護職員数	209人	211人	210人	212人	210人	187人	184人	175人	167人	162人	166人	163人	172人	171人	170人

※各年度末現在、臨時医師含む(研修医は含まない)

### ☆固定医数の推移☆



### ☆看護師数の推移☆



## 6. 患者数及び入院・外来収益の推移

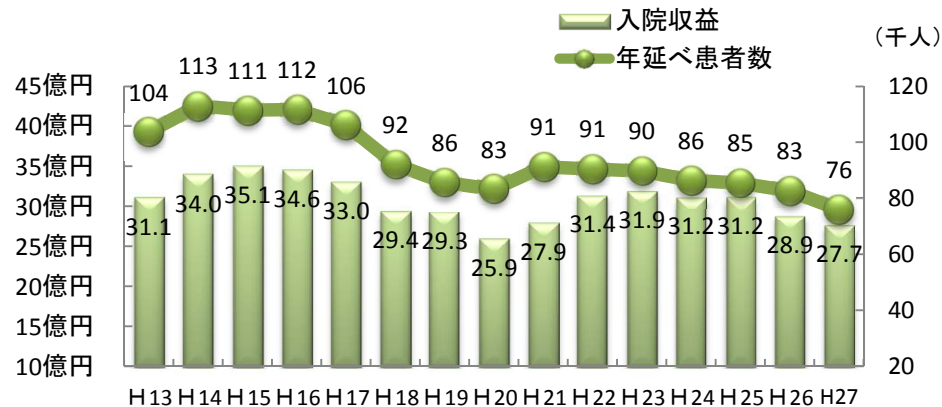
患者数は、入院が76,031人で前年度より6,619人減少し、外来は127,086人で前年度より3,524人の減少となりました。また、一日平均患者数では、入院が207.7人で前年度より18.7人の減少、外来は523.0人で前年度より10.1人の減少となりました。

収益を見ると、入院では平成22年度からは患者単価の上昇により30億円程度で推移していましたが、平成27年度は患者数・患者単価ともに減少し、入院収益は30億円を下回りました。

外来では平成23年度から患者数が徐々に増加し外来収益も増加傾向でしたが、平成27年度は入院と同じく患者数は減少し外来収益は13億8千万円で前年度を下回りました。

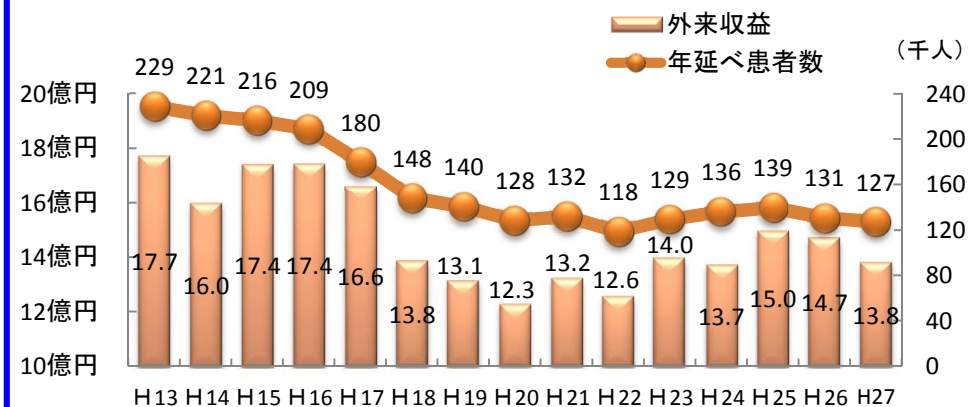
入院・外来合わせた収益は、前年度と比べると2億7百万円減少しています。

### ☆利用者(入院)と収益の推移☆



- ・平成14年度 新築効果による利用者増加
- ・平成15年度 看護体制充実などによる診療単価の上昇
- ・平成16年度 産婦人科、形成外科の診療体制縮小
- ・平成17年度 皮膚科、耳鼻咽喉科の診療体制縮小
- ・平成18年度 循環器、呼吸器科の診療体制縮小  
診療報酬マイナス改定による減収
- ・平成19年度 外科、脳神経外科の診療体制縮小  
療養病床（11月から30床）設置
- ・平成20年度 循環器、脳神経外科の診療体制縮小
- ・平成21年度 脳神経外科、皮膚科の診療体制拡大  
大外科、産婦人科の診療体制充実
- ・平成22年度 皮膚科、泌尿器科の診療体制縮小  
循環器内科の診療体制拡大
- ・平成23年度 泌尿器科の診療体制拡充
- ・平成24年度 泌尿器科・脳神経外科の診療体制縮小
- ・平成26年度 外科の診療体制縮小

### ☆利用者(外来)と収益の推移☆



- ・平成14年度 長期投薬解禁に伴う再来数の減
- ・平成16年度 産婦人科、形成外科の診療体制縮小
- ・平成17年度 皮膚科、耳鼻咽喉科の診療体制縮小
- ・平成18年度 循環器、呼吸器科の診療体制の縮小  
診療報酬マイナス改定による減収
- ・平成19年度 外科、脳神経外科の診療体制縮小  
沖見診療所（10月から）開設
- ・平成20年度 循環器、脳神経外科の診療体制縮小
- ・平成21年度 脳神経外科、皮膚科の診療体制拡大
- ・平成22年度 皮膚科、泌尿器科の診療体制縮小
- ・平成23年度 泌尿器科の診療体制拡充
- ・平成24年度 泌尿器科・脳神経外科の診療体制縮小
- ・平成26年度 外科の診療体制縮小

## 7. 一般会計からの繰入金の状況

地方公営企業法において、「その性質上、経営に伴う収入をもって、充てることが適当でない経費」や「経営に伴う収入のみをもって、充てることが客観的に困難であると認められる経費」については、地方公共団体の一般会計等(留萌市の場合は市の会計)で負担するものとされています。

この考え方を踏まえて、国では毎年度、地方財政計画(※1)に公営企業繰入金(病院から見ると繰入金)の基本的な考え方を示しています。

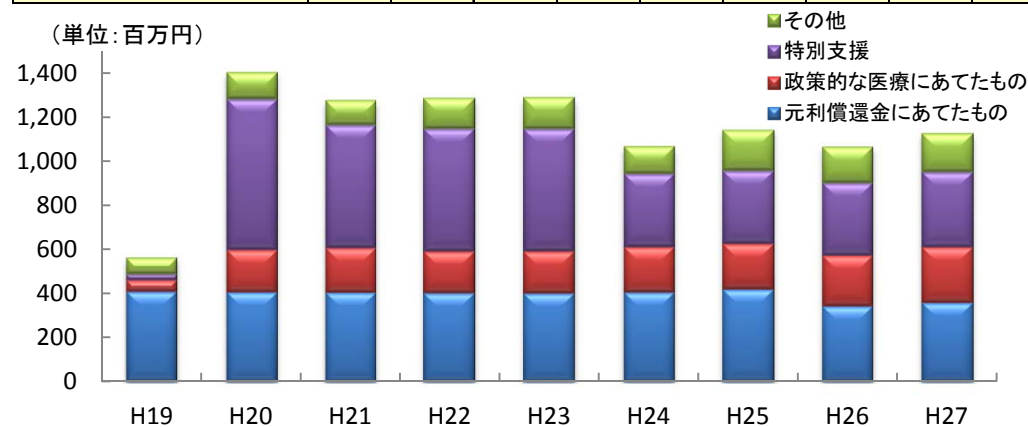
市と市立病院ではこの基準に基づいて、市立病院が地域医療の確保のために果たす役割と、一般会計が負担すべき経費を明確にして「病床数」や「建設費の元利償還金」、「救急告示病院数」などを基礎として国から配分される地方交付税算入額に加えて、「救急医療」と「小児・周産期医療」については「政策医療分」として、採算がとれない部分を全額市が負担することとしています。

(※1) 毎年度のあるべき地方行政の水準や制度改正に伴う経費の増減等を標準的な姿で積算することで、個々の地方公共団体の行財政運営の指針となるもので、その財源は地方交付税などで保障されることとなっています。しかし客観的に推測される水準を計上しているため、景気動向などによる税などの自然増減は反映されないため、計画と実際の決算額との間には乖離が生じることがあります。

### ☆一般会計繰入金の推移☆

(単位:百万円)

	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27
一般会計繰入金合計	562	1,404	1,277	1,286	1,289	1,067	1,140	1,065	1,126
元利償還金にあてたもの	410	408	406	403	402	406	420	344	360
政策医療にあてたもの	51	192	203	189	191	205	206	230	252
特別支援	27	683	557	556	554	332	330	328	340
その他	74	121	111	138	142	124	184	163	174
地方交付税算入額(病院分)	534	560	610	665	680	671	679	610	633



#### ※特別支援

- ・20年度までの不良債務の解消(病院特例債元利償還金含む)
- ・看護師確保対策費
- ・病院建設事業債利子補助

### ☆病院事業に係る主な国の財政措置☆

地方交付税(平成27年度)

項目	基礎数値	算定額
病床数	347床×705千円	244,635千円
元利償還金	-	222,174千円
救急告示病院	1施設、7床	44,779千円
小児医療(救急含)	18床	20,181千円
特例債利息	-	699千円
感染症病床	4床×4,107千円	16,428千円
その他	-	84,436千円
合計	-	633,332千円

### ☆病院事業に係る主な繰出基準☆

項目	基準
病院の建設改良費	企業債元利償還金の1/2 (ただし、H14までに着手した分は2/3)
救急医療の確保	救急病院における医師等の待機及び空床の確保等救急医療の確保に必要な経費
小児・周産期医療	収入を持って充てることができないと認められるものに相当する額
高度医療	高度な医療で採算を取ることが困難であっても、公立病院として行わざるをえないものの実施に伴う経費について、収入を持って充てることができないと認められるもの
保健衛生行政事務	集団健診、医療相談等に要する経費
医師・看護師等の研究研修	医師・看護師等の研究研修経費の1/2
公立病院改革プラン	病院特例債元利償還金の全額



## 8. 貸借対照表 ～バランス・シート～ (平成28年3月31日)

貸借対照表とは、一定時点における会計の財政状況を示す一覧表のことで、「資産」と「負債」「資本」を対照表示することによって、会計の財政状況を明らかにする財務諸表です。資産合計と負債資本合計が必ず一致し、表の左右のバランスがとれるのでバランスシートとも呼ばれます。

資産の部		負債の部	
		(単位：千円)	
<b>1 固定資産</b>		<b>5 固定負債</b>	
(1) 有形固定資産		(1) 企業債	5,951,556
イ 土地	519,593	(2) 引当金	
ロ 建物	4,029,358	イ 退職給付引当金	1,205,163
ハ 構築物	38,277	ロ 一般会計支出金引当金	133,562
ニ 器械及び備品	592,659	引当金合計	1,338,725
ホ 車両	2,928	(3) その他固定負債	0
有形固定資産合計	5,182,815	固定負債合計	7,290,281
(2) 無形固定資産	1,858	<b>6 流動負債</b>	
(3) 投資その他資産		(1) 一時借入金	500,000
イ 長期貸付金	123,915	(2) 企業債	470,998
貸倒引当金	△ 123,915	(3) 未払金	284,130
ロ 長期前払消費税	129,289	(4) 引当金	140,708
投資その他資産合計	129,289	(5) 預り金	19,059
固定資産合計	5,313,962	流動負債合計	1,414,895
<b>2 流動資産</b>		<b>7 繰延収益</b>	
(1) 現金預金	264,961	(1) 長期前受金	
(2) 未収金	740,239	イ 他会計補助負担長期前受金	93,851
(3) 貸倒引当金	△ 16,454	ロ 国・道補助金長期前受金	305,424
(4) 貯蔵品	34,412	ハ 寄附金長期前受金	51
(5) 前払金	0	ニ 受贈財産評価額	51,425
流動資産合計	1,023,158	繰延収益合計	450,751
<b>3 繰延勘定</b>		<b>負債合計</b>	<b>9,155,927</b>
(1) 退職給与金	25,271		
繰延勘定合計	25,271	<b>資本の部</b>	
<b>4 繰延資産</b>		<b>8 資本金</b>	
繰延資産合計	0	(1) 自己資本金	5,850,632
<b>資産合計</b>	<b>6,362,391</b>	<b>9 剰余金</b>	
		(1) 資本剰余金	1,473,984
		(2) 欠損金	10,118,152
		剰余金合計	△ 8,644,168
		<b>資本合計</b>	<b>△ 2,793,536</b>

資産合計 6,362,391

負債・資本合計 6,362,391

## 9. キャッシュフロー計算書（平成27年4月1日～平成28年3月31日）

キャッシュフロー計算書とは、一定期間の「現金(キャッシュ)の流れ(フロー)」を業務活動・投資活動・財務活動などに区分して表す財務諸表です。会計上の損益の額は現金等の収支と一致しないため、キャッシュフロー(CF)計算書を用いることで、損益計算書・貸借対照表では見えてこない現金の流れを知ることができます。 ※間接法により作成しています

(単位：千円)

### 1 業務活動によるキャッシュ・フロー

当年度純利益	△ 19,924
費資金項目の調整	148,622
減価償却費	465,769
固定資産除却費	2,399
繰延勘定償却費	39,673
長期前払勘定償却費	26,948
長期貸付金の償還免除費	17,960
引当金の増減額 (△は減少)	△ 328,856
長期前受金戻入額	△ 85,015
その他	9,744
営業活動による資産および負債の増減	△ 110,632
受取利息及び配当金	0
支払利息	109,371
未収金の増減額 (△は増加)	△ 224,916
未払金の増減額 (△は減少)	1,034
たな卸資産の増減額 (△は増加)	3,879
小計	18,066
利息及び配当金の受領額	0
利息の支払額	△ 109,371
業務活動によるキャッシュ・フロー	△ 91,305

### 2 投資活動によるキャッシュ・フロー

有形固定資産の取得による支出	△ 131,610
有形固定資産の売却による収入	0
補助金等による収入	0
長期貸付金による支出	△ 51,720
長期貸付金返済による収入	6,250
寄附金収入	0
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 177,080

### 3 財務活動によるキャッシュ・フロー

一時借入による収入	700,000
一時借入金の返済による支出	△ 400,000
建設改良費等の財源に充てるための企業債収入	92,100
建設改良費等の財源に充てるための企業債償還	△ 457,121
その他の企業債の償還による支出	△ 266,109
建設改良費等の財源に充てるための企業債の償還に充てるための他会計繰入金	66,738
その他の企業債の償還に充てるための他会計繰入金	266,109
他会計からの出資による収入	233,966
寄附金収入	100
その他	△ 1,499
財務活動によるキャッシュ・フロー	234,284

資金に係る換算差額	
資金増減額	△ 34,101
資金期首残高	299,061
資金期末残高	264,960

- ・業務活動によるCF: サービスの提供など営業活動(本業)から稼ぎ出した現金
- ・投資活動によるCF: 資産の取得、売却など
- ・財務活動によるCF: 借入金(起債)や市の繰出金など外部からの資金調達

当事業は、費用の縮減で経営の効率化を図っていますが、**業収入が落込んでいるため本業の業績は悪化**しています。**[業務活動CFがマイナス]**  
また、借入金(企業債)の残高を市からの支援を受けながら減少させていますが、**資金不足により銀行から一時的に借入**を行ったため**[財務活動CFがプラス]**となりつつ、**医療機械の更新や看護師等の確保のために投資**を実施**[投資活動CFがマイナス]**していることが分かります。

これらにより平成27年度決算では、現金等の期末残高は若干減少しています。

## 10. 平成28年度 留萌市病院事業予算執行状況(平成28年9月30日現在)

収益的収入及び支出における平成28年度上半期の予算執行状況(執行率)は、収入においては49.7%、支出においては39.4%となっています。資本的収入及び支出では、収入で37.9%、支出で46.7%となっています。

患者数は入院で前年度を下回っており、収益においては患者数の減に伴う診療収益の減少により、前年同期比で4千9百万円の減収となっています。費用については、常勤医師の減に伴う出張医増加による委託料の増加などで、前年同期比で8千7百万円の増加となっています。前年同期と比較した収支の状況は、収益が減少しているのに費用が増加しているため、約1億3千万円のマイナスとなっています。

### ☆収益的収入及び支出☆ (税込み)

(単位：千円、%)

収益的収入				収益的支出			
	予算額	執行額	執行率		予算額	執行額	執行率
入院収益	3,098,538	1,323,894	42.7	給与費	2,803,476	1,206,871	43.0
外来収益	1,381,579	659,756	47.8	材料費	999,166	432,531	43.3
他会計負担金	134,791	134,791	100.0	経費	1,438,089	644,148	44.8
その他医業収益	201,145	105,744	52.6	減価償却費	485,312	0	0.0
他会計補助及び負担金	420,227	386,331	91.9	研究研修費	22,504	12,171	54.1
道補助金	29,592	0	0.0	支払利息	103,452	51,886	50.2
その他	364,948	160,995	44.1	その他	149,475	12,413	8.3
特別利益	50,002	50,860	101.7	特別損失	2	3,504	175,200.0
				予備費	3,000	0	0.0
合計	5,680,822	2,822,371	49.7	合計	6,004,476	2,363,524	39.4

### ☆資本的収入及び支出☆

(単位：千円、%)

資本的収入				資本的支出			
	予算額	執行額	執行率		予算額	執行額	執行率
企業債	100,000	0	0.0	建設改良費	113,973	39,925	35.0
他会計出資金	238,058	119,029	50.0	企業債償還金	470,998	234,701	49.8
他会計負担金・補助金	56,954	28,477	50.0	投資	46,800	21,000	44.9
その他	4	2,400	60,000.0	予備費	1,000	0	0.0
合計	395,016	149,906	37.9	合計	632,771	295,626	46.7

### ☆患者数☆

(単位：人)

区分	本年度	前年度	同期増減
入院	36,220	38,999	△ 2,779
外来	64,054	63,801	253
合計	100,274	102,800	△ 2,526

### ☆経営成績☆

(税込み)

(単位：千円)

区分	本年度	前年度	同期増減
総収益	2,822,371	2,871,437	△ 49,066
総費用	2,363,524	2,275,809	87,715
差引損(△)益	458,847	595,628	△ 136,781